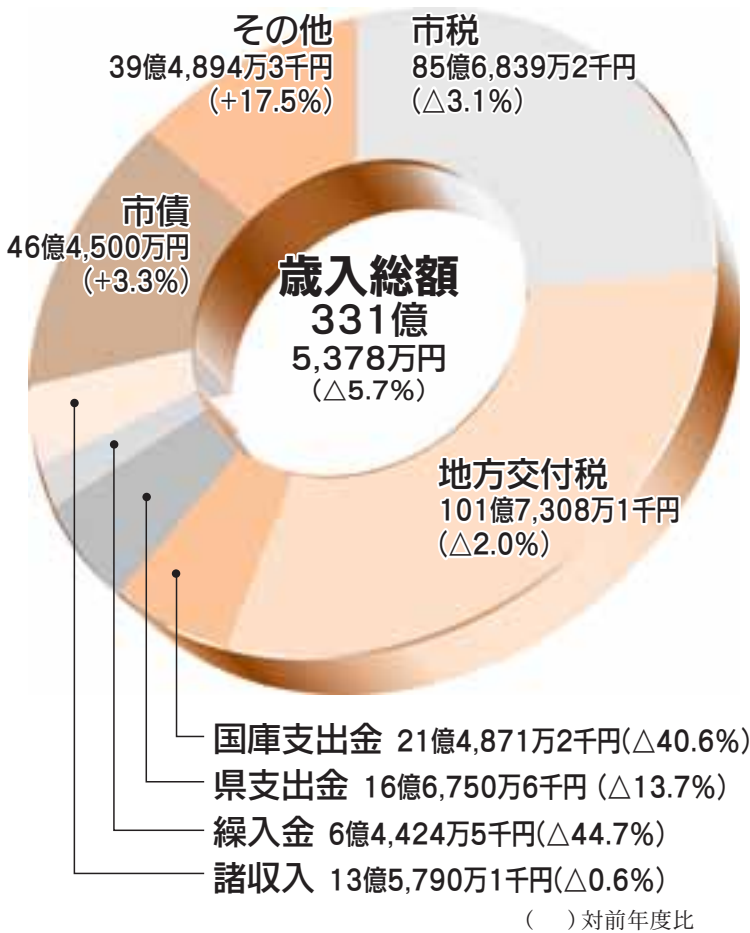


平成18年度決算のあらまし

会計



基金の状況

・財政調整基金残高	8億1,477万5千円 (△29.5%)
・減債基金残高	7億9,838万4千円 (+803.3%)
・その他特定目的基金残高	6億2,054万8千円 (△6.1%)

減債基金残高の増加は、減債基金の運用による公債費の繰上償還に充てるためのものです。

- ・財政調整基金とは 突発的な災害や緊急を要する経費に備えるため、積み立てているお金
- ・減債基金とは 市が借り入れたお金の返済の増加に備えるため、積み立てているお金

平成18年度は、「行革元年―未来のこどもたちへ―」のテーマのもと、市民のみなさんが住みやすいまちになるように、都市基盤の整備や福祉、教育などさまざまなサービスを進めてきました。歳入では、固定資産税の評価替えや、国庫補助負担金改革による国庫支出金の縮小、所得税から個人住民税への税源移譲に伴う暫定的な財源措置として、所得譲与税による譲与などがありました。また、歳出では、駅前第二再開発ビル「ミナ・クル」の整備、足湯施設「湯つ足りパーク」の整備、「市民のねがい―七尾市民憲章―」の制定などに取り組みました。地方財政を取り巻く状況は、これまでの国の三位一体改革における、国庫補助・負担金の改革、税源移譲、交付税制度改革の影響を受け、ますます厳しい局面となります。今後、財政の健全化に向け、行財政改革を積極的に推進し、さらなる行政コストを削減して財政基盤の安定を図ります。市勢発展のため、市民のみなさんのご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成18年度の目的税の使いみち

1. 入湯税

目的：温泉地であるために必要となる経費に充てるため

・ごみ処理など	4,181万円
・消防関係	390万2千円
・観光の振興（ソフト事業）	8,643万1千円
・観光施設の整備	1,003万5千円
計	1億4,217万8千円

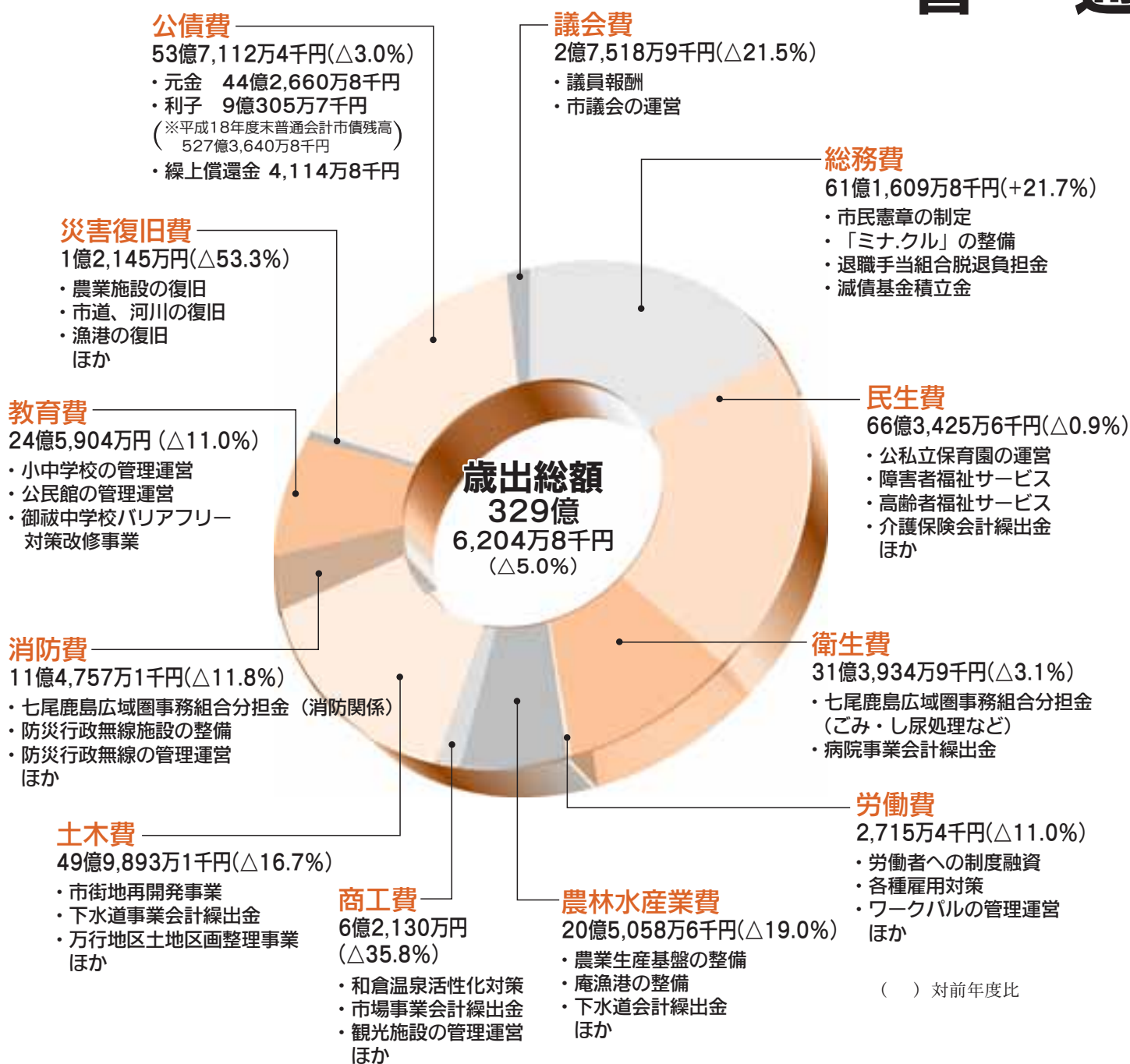
2. 都市計画税

目的：都市計画事業を行うため

・都市計画街路	2億1,198万4千円
・下水道など	2億8,734万8千円
・公園	881万4千円
・土地区画整理	5,297万8千円
計	5億6,112万4千円

お問い合わせは 財政課 ☎53-8455

普通



経常収支比率

市の生活費の状況を収入との割合から計る1つの目安であり、数値が低いほど財政構造に弾力性があります。

$$\left(\frac{\text{経常経費充当一般財源〈歳出〉}}{\text{経常一般財源総額〈歳入〉}} \right) \times 100 (\%)$$

平成18年度 101.9% (平成17年度 102.1%)

実質公債費比率

市全体の様々な事業における、市のローン返済の状況を計る目安であり、数値が低いほど財政構造に弾力性があります。

(平成17年度決算から創設)

平成18年度 22.1% (平成17年度 20.3%)

